

海外最新事情

イギリス

ユーロで英国庭園へ

ブレア首相はユーロ参加に積極的だが、一般的な英国国民の過半数はこの欧州統一通貨に対して未だ懐疑的である。2002年夏に何度か利用したロンドン～オクスフォード間の直通バス「オクスフォード・チューブ」は既にユーロで乗車賃を支払うことができるようになっていたが、これは今のところ英国ではきわめて例外的と言ってよい。

ところが2002年11月10日付の『インディペンデント』紙に次のような記事を見つけた。それは‘National Trust sites to take euro’ というヘッドラインである。新聞の見出しにおける「to 不定詞」は未来を表わす。記事によれば、「ストーンヘンジ（原文ママ）やファウンテン・アビーを含む英国の有名な観光スポットへの訪問者は、今後入場券や土産物をユーロでも買えるようになることが、ナショナル・トラストで投票によって決まった」とのことである。ナショナル・トラストとは英国の歴史的建造物や自然の風景を保存する目的で1895年に設立された非営利団体である。英国式風景庭園の最高傑作のひとつスタウアヘッドも、レイコックの美しい村（映画『ハリー・ポッターと賢者の石』の一部の場面はここで撮影された）も、ドウヴァーの白亜の断崖も皆ナショナル・トラストが所有し保存しているのである。

このように、ある意味では英国的伝統の守護神とも言うべき存在であるナショナル・トラストが、国民感情からすればまだ決して受け入れられていない新しい通貨をいち早く導入するというのだから、これはひとつの象徴的事件なのである。スタウアヘッドばかりでなくヒドコット・マーナー、

シシングハースト・カースル、スタッドリー・ロイヤルなど英国庭園史に綺羅星の如く輝く名園への入場料を、これからはユーロでも支払うことができるようになるということだ。

今後は先ずいくつかの観光アトラクションで実験的に欧州統一通貨を導入するという「パイロット・プロジェクト」を実施し、そののちに全国のナショナル・トラストが所有するすべてのアトラクションでユーロを受け入れるようにするという。しかしながら、「すべてのレジがこの通貨に対応したものに置き換えられる」のは当分先のことになるだろう。こういうことに異常に時間がかかるのが英国という国なのである。

ところで、この『インディペンデント』の記事を読んでいて気になったことがひとつある。「ストーンヘンジ...を含む」という箇所がそれである。私の記憶に間違いがなければ、この世界遺産にもなっている古代遺跡はナショナル・トラストではなくイングリッシュ・ヘリティッジが所有していたはずだ。

（安藤 聡）

アメリカ

“ Nu shortcuts in school R 2 much 4 teachers. ”

最近の New York Times で (2002年9月19日) このような英語表現がアメリカの若者の間で頻繁に使われていると報じられています。もうお分かりかと思いますが(わからない?) これは“ New shortcuts in school are too much for teachers. ” (「学校の新しい近道 [省略法] は教師の手に負えない。」) のことです。つまり、本来のスペリングを簡略化し、Nu (= new) cuz (= because) のような省略形や、2 (= too) b4 (= before) l8r (= later) といった、音だけが同じ (近い) 単語に置き換えることで作文をするという書記法です。そのために学生の書いたものが読めない、さらには正書法に対する反乱だ、と危機感を強める大人 (主に中学・高校教師) が増えているという記事です。若者の言葉遣いは紀元前の昔から「大人」にとって揶揄・侮蔑・非難の対象でしたから驚くには当たりませんが、これはスピード重視のコミュニケーションが行われるチャットやEメールなどの書き言葉から教育現場に浸透してきた書記法です。一部の識者の中には、これによって若者が「書く」ことに親しみ、より速く書けるのならいいではないかという意見もあります。むしろ問題なのは、このような書記法を使うのではなく、使い分けの意識が低い点にあるのでしょうか。これは一頃日本でも流行ったポケベルの暗号にあたる用法です。しかし部分的にしか置き換えられないため、かえって暗号よりも異質さが目立つようです。(日本でもかつて といっても25年くらい前から10年間ほど 「丸文字」のような学校現場で弾圧を受けた文字形体がありました。) また、論点を主張したい時は笑い顔、反論する時は怒り顔、のような顔文字 (emoticon) を付加することで、情緒・意図を明確化することも行われているようです。(丸文字と一緒に使われた顔文字にも同様の機能があり、この点でアメリカのずっと先を行って

いたわけです。) また、この書記法のおもしろい点は、because を cuz に、before を b4 に置き換えるような経済性にあるだけでなく、wus (= was) のように一見徒勞とも思える置き換えが見られる点です。なぜこんなことをするのか、皆さんも胸に手を当てれば何となく思い当たるフシがあるのではないのでしょうか。

興味のある方は以下のサイトをご覧ください。

<http://www.nytimes.com/2002/09/19>

[/technology/circuits/19MESS.html?8cir](http://www.nytimes.com/2002/09/19/technology/circuits/19MESS.html?8cir)

では最後に問題。次の略語 / 頭文字はどのような表現の代わりなのでしょう? Make a wild guess!

略語: ' oic '

頭文字: ' nm ' ' jk ' ' lol ' ' ttyl '

(片岡邦好)

ドイツ

ある作曲家の死

新聞に小さな死亡記事が載った。『天声人語』で紹介されなければ、おそらくほとんどの人が見逃してしまっただろう。亡くなったのはドイツの作曲家ノルベルト・シュルツェ氏、10月14日、91歳。彼はただ一曲の歌によってその名を知られた音楽家だった、その歌の名は『リリー・マルレーン』という。

第二次世界大戦時に若い兵士の間で流行したこの歌を最初に歌ったのは、家族をスイスに残してドイツに出稼ぎに来ていたラーレ・アンデルセンだった。突然の大ヒットにより彼女は前線慰問に駆り出される忙しい毎日を送っていたが、それも長くは続かなかった。彼女はユダヤ人である夫のもとへ亡命しようとして逮捕されてしまう。その人気ゆえに一命はとりとめたが、その後は歌うことを禁止され、人目を避けて暮らすことを余儀なくされる。

そしてドイツで禁止されたこの歌を世界に広く知らしめたのが、女優マレーネ・ディートリヒである。彼女は、ヒトラーから女優としてナチスに協力するように要請を受けたがこれを拒否し、アメリカに亡命してナチスと戦うことを決意する。彼女が武器としたのが、この歌『リリー・マルレーン』であった。彼女は前線の兵士たちに向かってこの歌を歌うことによって戦争の無意味さを問い続けた。

ラーレ・アンデルセンは1972年ウィーンでひっそりと亡くなり、マレーネ・ディートリヒも1992年に、母国の心ない人から「裏切り者」と呼ばれながらその生涯を終えている。作詞者ハンス・ライプも1983年に亡くなっている。関係者の中で、シュルツェ氏が最後までこの歌の運命を見守ったことになる。そして今この歌だけが残された。多くの人の心をひきつけたこの歌は、その物語とともに語り継がれ、歌い継がれてゆくことだろう。

(島田 了)

フランス

教育関係者のストライキ (2002年10月17日)

フランスでは、教育関係者のストライキやデモは珍しくないが、2002年10月17日、全国の幼稚園から大学までの教職員が、主として2003年度国家予算案での生徒監督 (surveillant) 削減などの教職員雇用政策や、地域間格差を生みかねない教育の地方分権化に反対して決起した。教育省発表の数字で教員の43.97%、教員以外の職員の36.77% (主催者側発表は教職員全体の60%以上) がストライキに参加し、街頭デモにはパリで1万5000人、マルセイユで7000人など全国で10万人以上の教職員が参加したとみられる。

これは、最近では2000年3月16日にあったものにつぐ規模である。その時の Manifesto は、教職員数の削減に直結する公務員雇用凍結に反対するもので、教職員の60%以上がストライキに参加、街頭デモにはパリで3万人、愛知大学の提携校オルレアン大学のあるオルレアンでも3000~5000人など全国で20万人が参加した (筆者はちょうどフランスセミナーの引率中で、パリでのデモを見た)。

フランスでは、この種のストライキやデモに対する一般市民の反応は概して好意的で、今回についても、国民の約73%が支持もしくは共感を抱いているとの調査結果があるようだ。未来の人材を育てるといふ重大な役割を担う教育の環境を悪化させるような施策にはほとんど反対するという風土が、フランスにはあるように思われる。

なお、教育関係者がデモをする場合、父兄や生徒も加わるのが普通の光景であることも付け加えておく。

(田川光照)

中国

上海と北京の最新流行

上海での新流行 “AA制”式家庭

家のローンも一緒に返済、子供の教育費も一緒に負担、海外旅行に出かける際もそれぞれ自分の旅費を支払う…。上海では、男性と折半で家計を負担しようとする女性がだんだん増え、いわゆる夫婦の「合弁経営」的な家庭が多くなってきた。それを“家庭AA制”と中国語で言う。上海市婦人連合会が最近発表した18地区の調査結果によると、68.4%の上海の女性が「家庭と自分の生活を維持するために仕事をする」と答え、52.0%の女性が「経済的な独立を求め、高収入を得るために仕事をする」と答えた。これらのパーセンテージは1990年に比較してそれぞれ12.2%と5.9%上昇した。ここ12年の間に、上海の女性たちの就職目的はさらに現実的となり、以前より自分の収入の家計における比重を一層重視するようになった。仕事に対する女性たちの見方のこのような変化が“AA制”式家庭の誕生を促し、“家計における男女平等”というパターンが出現してきた。専門家たちの分析によると、現代の家庭構造は、以前の「女性は男性に依存する」というものから「男性が主導で女性は補助」というものへ、そして現在のような「完全に平等あるいは独立」へと変化した。さらに、このような“AA制”式夫婦は婚姻関係上の「協力者」であり、男女平等の現れであると指摘されている。その上、“AA制”式を選ぶ若者たちは家庭にいつか変化が生じた場合、例えば、離婚した場合など、財産の分割が容易であるということも考えているのではないかという分析もあった。いずれにしても、中国の伝統的な婚姻観念は時代とともに変化している。この“AA制”式の流行は今後も続いていくのだろうか。注意深く見守っていきたい。

北京の街で気になった中国語

靴売り場で店員にこのように勧められた。“小

姐，你穿这鞋很酷！买一双吧。”（お客様、この靴を履くととっても格好いいわ。買ったら。）気になったのは、この“酷”（kù）という字。“酷”はとくに若者の中で流行している新しいことで、英語“cool”の音訳であるという。中国語での“酷”は表す意味が広く、「かっこいい男性」、「かっこ良くておしゃれな女性」、「個性のある人、事物」、「うつくしい建物」、「すばらしいショー」、「はやりの言葉」などを、全部この“酷”で表せる。さらに調べたところ、このような言い方もある。“扮酷”（bànkù）「格好をつける」、「比酷”（bìkù）「格好良さを競う」、「玩儿酷”（wánkù）「きざに見栄をはる」、「酷哥”（kùgē）「かっこいい男性」、「酷妹”（kùmèi）「かっこいい女性」、「酷妆”（kùzhuāng）「素敵な化粧・装い」、「酷发”（kùfà）「素敵な髪型」、「酷语”（kùyǔ）「すばらしい言葉」、「酷评”（kùpíng）「すばらしい評価」などである。15年間も離れた故郷は、どんなに変化しても、若者たちが求めているのは依然として「かわいさ」ではなく、「かっこ良さ」である。（鄭高詠）

P17の答え

- ' oic ' = Oh I see.
- ' nm ' = Not much.
- ' jk ' = Just kidding.
- ' lol ' = Laughing out loud.
- ' ttyl ' = Talk to you later.

編集後記

今回から編集担当者が交代しました。また今回から、「海外最新情報」のコーナーを新たに設けました。学生諸君の異文化に対する興味のきっかけになれば幸いです。ただ、原稿執筆から『語研ニュース』が配付されるまでにある程度の時間がかかるので、「最新」ではなくなってしまうこともあるのですが、その点は寛大にご理解下さい。

今回は韓国を特集しました。昨年の日韓共催サッカー・ワールドカップの影響もあってか、韓国・朝鮮語学習者人口が顕著に増加しています。これが一時的なブームに終わらないことを期待したいと思います。今後も、国別、テーマ別などの特集を適宜組みたいと思います。特集についての希望やアイデアなどがあれば、編集部にお知らせくだされば幸いです。

(S. A./M. T.)